

# 令和8年度 運営に関する計画

大阪市立五条小学校

令和8年4月

## 1 学校運営の中期目標

### 現状と課題

本校は、地域や保護者の教育に対する意識が高く、多くの児童が何らかの習い事に通っていることもあり、全国学力・学習状況調査等の学力調査では、常に全国平均を上回っている。しかし、大阪市平均を下回る児童も決して少なくなく、学力のばらつきは大きい。また、知識量が豊富な児童が多い一方で、その知識を活用して表現することについては、学年が上がるにつれて苦手意識をもつ児童が増える傾向がある。ただし、昨年度までの4年間、授業の中に積極的に話し合い活動を取り入れることに重点的に取り組んできたことで、大阪市小学校学力経年調査の「自分の考えを表現すること」に関する設問で肯定的な回答をする児童の割合は増えている。

一方、体力面については、年度によっては一部の項目で大阪市平均を上回ることはあるものの、学齢相応の体力が十分に身につけていないことを示す結果が出ている。原因としては、児童数に対して運動場が狭いことに加え、学校の環境だけでなく、放課後や休日に運動する機会が少ないとの調査結果もあり、日常生活の中で運動する機会が少ないことが挙げられる。ただし、「運動が好き」と回答する児童の割合は大阪市平均より高く、児童の興味関心を大切にしながら、運動する機会をどのように確保していくかが今後の課題である。

本校は数年前より児童数が急増し、空き教室がない、または特別教室を十分に活用できないなど、学校生活を送る上で恵まれた環境とは言いがたい。令和8年度新入生から学校選択制による入学制限を開始したことで、長期的には学級減が見込まれるが、令和11年度まではその効果は限定的と考えられる。したがって、空き教室の不足や運動場の狭さといった課題は、直ちに解決されるものではない。そのような状況の中で、児童が互いに適切な距離を保てず、心身の摩擦が起りやすい状況への対応は重要である。互いを思いやり、違いを認め合う取組を最優先で進める必要がある。

### 中期目標

#### 【安全・安心な教育の推進】

##### ・基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現

○令和11年度の全国学力・学習状況調査の「学校へ行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を87%以上にする。

##### ・基本的な方向2 豊かな心の育成

○令和11年度小学校学力経年調査における「自分にはよいところがありますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。

#### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

##### ・基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上

○令和11年度の小学校学力経年調査・校内調査の「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気づいたりすることができていますか」に対して、肯定的に答える児童の割合を85%以上にする。

**・ 基本的な方向5 健やかな体の育成**

○令和 11 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「運動やスポーツをすることが好きですか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を 90%以上にする。

**【学びを支える教育環境の充実】**

**・ 基本的な方向6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進**

○令和 11 年度小学校学力経年調査における「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に対して週 3 回以上と回答する児童の割合を 80%以上にする。

**・ 基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり**

○令和 11 年度末の教員の 1 か月あたりの平均時間外勤務時間を 20 時間以下にする。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標

### 【安全・安心な教育の推進】

○小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を 85%以上にする。また 1・2 年生に実施する校内調査を含めれば 87%以上とする。

○小学校学力経年調査における「自分にはよいところがありますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85%以上にする。また 1・2 年生に実施する校内調査を含めても 85%以上とする。

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○小学校学力経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気づいたりすることができていますか」に対して、肯定的に答える児童の割合を 81%以上にする。また 1・2 年生に実施する校内調査を含めれば 85%以上とする。

○小学校学力経年調査における「運動やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 91%以上にする。また 1・2 年生に実施する校内調査を含めても 90%以上とする。

○校内調査の「けがや病気に気を付けて、学校生活を送ることができている」という項目について、肯定的な回答をする児童の割合を 90%以上にする。

○「食に関する指導」の事後のアンケートにおいて「バランスよく食べようとしている」という項目について肯定的な回答をする児童の割合を 80%以上にする。

### 【学びを支える教育環境の充実】

○小学校学力経年調査における「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に対して週 3 回以上と回答する児童の割合を 57%以上にする。

○教員 1 か月あたりの平均時間外勤務時間を月 20 時間以下とする。

## 3 本年度の自己評価結果の総括

--

大阪市立五条小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した  
 C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
<p><b>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</b></p> <p>○小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。また1・2年生に実施する校内調査を含めれば87%以上とする。</p> <p>○小学校学力経年調査における「自分にはよいところがありますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。また1・2年生に実施する校内調査を含めても85%以上とする。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
<p><b>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生活指導部を中心に、生活指導連絡会や生活指導部会等を通して、児童の様子について共通理解を深める。情報を共有したのち、その児童に応じた教育活動を教職員全体で関わって進めていく。児童が安心・安全に過ごすことができる環境づくりに努める。</li> <li>「いじめについて考える日」等、様々な機会を通して、児童とともにいじめ防止に対しての意識を高める取り組みを進めることで「いじめを絶対に許さない」という共通認識もたせ児童が安心して学校に通える環境づくりを進めていく。</li> <li>異学年交流を取り入れた児童会活動を通して、児童が主体的に取り組む機会を充実させる。活動の中で役割や成果を実感させることで自己有用感を高め、自己肯定感の向上につなげる。</li> </ul>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生活指導部会・生活指導連絡会をそれぞれ月1回以上実施する。</li> <li>小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という項目について肯定的に答える児童の割合を95%以上にする。</li> <li>五条まつりや卒業おめでとう集会、色別集会等、児童会活動の昨年度の取り組みを見直しながら実施するとともに、異学年交流の取り組み回数を昨年度よりも増やす。</li> </ul>	
<p><b>取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校内の人権課題の把握に努め、その課題に即した人権集会を実施するなど、児童の実態に応じた人権教育を進める。</li> <li>人権教育部会で児童の実態や学年の取り組みについて共有したり、人権教育の授業準備を進めたりするなかで教員自身の人権感覚の向上を図り実践にいかすことで、自他共によさを認め合える児童の育成に努める。</li> </ul>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人権集会を学期に1回（年3回）計画的に実施する。</li> <li>児童の実態や課題の共有のために人権教育部会を月に1回行う。</li> </ul>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
次年度への改善点

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</b></p> <p>○小学校学力経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気づいたりすることができていますか」に対して、肯定的に答える児童の割合を81%以上にする。また1・2年生に実施する校内調査を含めれば85%以上とする。</p> <p>○小学校学力経年調査における「運動やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を91%以上にする。また1・2年生に実施する校内調査を含めても90%以上とする。</p> <p>○校内調査の「けがや病気に気を付けて、学校生活を送ることができている」という項目について、肯定的な回答をする児童の割合を90%以上にする。</p> <p>○「食に関する指導」の事後のアンケートにおいて「バランスよく食べようとしている」という項目について肯定的な回答をする児童の割合を80%以上にする。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p><b>取組内容①【基本的な方向3 誰一人取り残さない学力の向上】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、算数科を中心に授業改善に取り組み、教員の授業力向上を図る。</li> <li>・児童が自分の考えを深めたり、広げたりすることができるような授業を構築できるよう、研究部会や指導案検討会を計画的に実施し、算数科の学習指導案の検討を行う。</li> <li>・各教科において、単元や題材に即したペアやグループでの話し合いや学習したことを振り返る活動を取り入れることで、児童が興味や関心をもって学習に取り組めるようにする。</li> </ul> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した算数科の授業研究・討議会を各学年で年1回以上実施する。</li> <li>・研究部会・指導案検討会を年間に6回以上実施する。</li> <li>・対象教員による1人1回の公開授業を2学期末までに実施する。</li> <li>・GNP研修を中心に校内研修を年間10回以上実施し、教員の指導力向上を図る</li> </ul>	
<p><b>取組内容②【基本的な方向4 健やかな体の育成】（体育）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の体力・運動能力の向上を目指し、狭い校庭でも子どもたちが十分に体を動かすことができる活動を模索し、運動量確保、技術の習得に努めていく。</li> <li>・子どもたちがより多様な種目に取り組めるよう、体育の学習の年間指導計画をもとに、計画的に授業を実施し、運動の楽しさを伝えるように努めていく。</li> </ul> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体育カードを年に3枚児童に配布する。</li> <li>・各学年、年間2単元以上ICT機器を活用した授業を行う。</li> <li>・ICTの活用方法の共有など、教員に向けた体育研修会を年に3回以上実施する。</li> </ul>	
<p><b>取組内容③【基本的な方向4 健やかな体の育成】（保健）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事故やけがが起きる要因を理解し、安全に学校生活を過ごすことができるようにする。</li> <li>・自分の身体に関心を持ち、けがや病気を予防するための基本的な生活習慣を発達段階に応じて身につけることができるようにする。</li> </ul> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年に1回、学校保健委員会を開催する。</li> <li>・健康委員会児童による「けががなくし隊」が校内を巡回して声掛けを実施したり、放送やポスターを作成したりして校内安全の啓発活動を実施する。</li> <li>・年に2回以上、「健康週間」を実施する。</li> </ul>	

<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月ほけんだよりを配布して、児童だけでなく保護者へもけがや病気の予防について啓発する。</li> </ul>	
<p><b>取組内容④【基本的な方向4 健やかな体の育成】（給食）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食や健康への関心を持ち、バランスよく食べようとする食習慣を身につけることができる。</li> <li>・食べ物の3つの働きとそのグループの食べ物が分かるようにする。</li> </ul>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年において、年2回発達段階に応じた食に関する指導を行う。</li> <li>・日々の給食において、食についての動画を視聴する。</li> <li>・「食育月間」を6月、「給食週間」を1月に実施する。</li> <li>・9のつく日に「給食残さないデー」を設定する。</li> </ul>	

<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>
<p>下半期に向けての改善点</p>

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した  
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</b></p> <p>○小学校学力経年調査における「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に対して週3回以上と回答する児童の割合を57%以上にする。</p> <p>○教員1か月あたりの平均時間外勤務時間を月20時間以下とする。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p><b>取組内容①【基本的な方向5 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日々の学習において自分の考えを表現する方法の1つとして、学習者用端末の活用を進める。</li> <li>前年度に行った効果的な実践を伝達し、今年度に生かすことができるようにする。</li> </ul> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業日における児童の学習者用端末の使用率を80%以上にする。</li> <li>実践交流と現状課題の確認のためのICT部会を年8回以上実施する。</li> <li>前年度の実践をまとめた引き継ぎ簿を作成する。</li> </ul>	
<p><b>取組内容②【基本的な方向6 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>職員一人一人のスキル向上のためにGNPを中心に必要な研修を計画・実施する。</li> <li>放課後の会議、打ち合わせをより効率的に行うために、事前の準備を確実に行う。</li> </ul> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>GNPを中心に校内研修の場を年6回以上実施する。</li> <li>職員はおそくとも19時に退勤する。また水曜日は18時とする。</li> </ul>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	